

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立大垣南高等学校 事業実施報告書①

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

都道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 III、IV 】
2 実施対象者	・全校生徒 720名 ・保護者・地域の方 40名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合学習)
4 目標 (ねらい)	1. オリンピアン・パラリンピアンの方の生き方を通して、スポーツの意義、人生において困難や挫折を乗り越える精神を学び、自分の生き方を考える機会とする。 2. 東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高め、その成功に向けて、自分ができることを考える一歩とする。 3. 障がい者スポーツを通して個々の可能性を発見し、障がい者に対する偏見や誤解を払拭し、多様な状況に対応できる力をつける一助とする。
5 取組内容	1. オリンピアンによる講演会 日時 11月10日(金) 講師 金藤 理絵 氏 (リオオリンピック女子 200M 平泳ぎ金メダリスト・ぎふ瑞穂スポーツガーデン) 内容 講演会「あきらめない心」 実技指導 体幹トレーニング 2. パラリンピアンによる講演会 (明日チャレ！スクール) 日時 11月7日(火) 講師 神保 康広 氏 (4期連続パラリンピック車椅子バスケットボール出場・日本財団パラリンピックサポートセンター) 内容 講演 「他者のことを自分ごととして考える心」 「障がいとは何か」 「可能性に挑戦する勇気」 「夢や目標を持つ力」 車椅子バスケットボールの実演・体験 神保さんのプレイを観戦したあと、男女各数名の生徒と、教員が車椅子バスケットボールの試合を行った。





金藤選手は、自分の生い立ちや練習法を紹介し、期待が大きい中で結果を残す難しさや体の故障、挫折について話してくれた。「夢や目標をかなえるだけでなく、そこに向かって努力することが大切で、どんなに苦しくても、歩みをやめなければ絶対に明るい未来がある」と語った。講演会後の質問コーナーでは、緊張しないで力を出せる方法など、生徒から多くの質問があった。講演会の後には、運動部の生徒100名余りが体幹トレーニングを金藤選手から受けることができ、直々にアドバイスを受けるながらトレーニングに励んだ。

神保選手の講演では、まずは競技用の車椅子の機能を実践を交えて紹介してくれ、シュートが決まるまで諦めず何本も投げ続ける姿を見せてくれた。そして、不慮の事故で車椅子生活になり、そこから立ち直るまでの苦悩や、その後自分の可能性を見つけチャレンジし続けて今があることなどを話してくれた。生徒や教員が車椅子バスケットを体験し、車椅子を操作しながらもボールを扱う難しさを体感した。

6 主な成果

(生徒の感想より)

・私は金藤選手の講演を聞いて、とても勉強になりました。すべて成功するわけではないとあきらめてしまいがちな自分に、挫折などをしたからこそ、次に向かっていけるということを言い聞かせて頑張っていきたいと思うことができました。また、体幹トレーニングでは、普段のトレーニングで自分がやることより上のレベルに進んだことができ、もっと力をつけることができると思いました。細かくどのようにどこを気を付けてトレーニングすればよいのかも学ぶことができ体感してよかったです。

1年女子

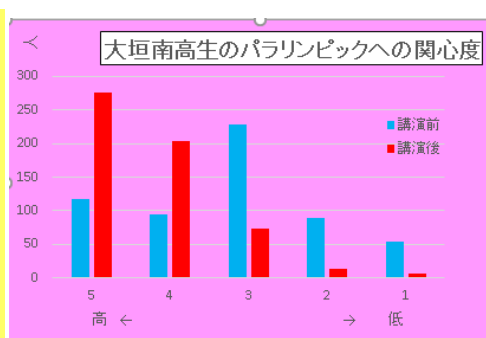
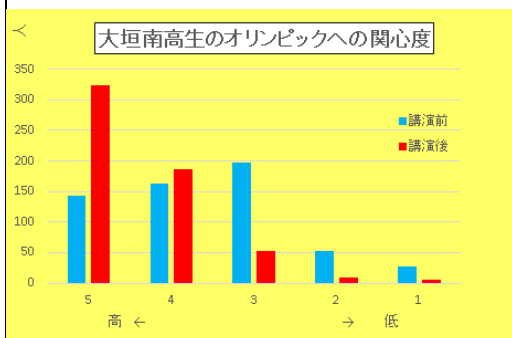
・今回の金藤選手のお話を聞いて、やはり「諦めない心」は大切だなと思いました。私は今年受験があり、勉強などではやく受験生をやめたいなとか、今日は集中してできないとか精神的に不安定で、色々とナーバスになっていたのですが、金藤選手も同じような苦しみや辛さを経験されていたというお話を聞き、少し心がほっとしました。私は、いつもテストや面接のときに緊張してしまうので、ルーティーン、何か習慣をつくり、本番に臨み、良い結果が出せるといいなと思いました。

3年女子

・車椅子バスケットは、今までテレビなどで少し見たことはあったけれど、自分には無関係なことだと思っていた。実際にやっている人たちは楽しそうだったし、それを見ているだけでも楽しめた。スポーツを楽しむのに障がいのあるなしは関係ないと思った。神保さんの話を聞いて、夢や目標を持ち、そのために実行していくことが大切だと実感した。心で思っているだけでなく行動に移していきたいです。

1年女子

(講演前と講演後の生徒のオリパラへの関心度調査)



生徒のオリンピック・パラリンピックへの関心がぐっと高まり、東京大会では何かボランティアをして大会を盛り上げたい、という声が多く聞かれた。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

・チラシを作成し、オリパラ教育実施校のねらいも掲載し、啓発活動とした。また、保護者だけでなく、近隣にもパンフレットを用いて宣伝し、地域の活性化や本校の教育活動を知らせることにつなげた。

8主な課題等

・直接講演者の方と連絡を取り合えるのではないので、準備にあたって、不確定なことを残しながら、当日に確認ということがいくつかあり、不安を抱えながらの準備となった。

9来年度以降
の実施予定

・今年度は、巡りあわせがよく、2 回もオリンピック・パラリンピアンを招くことができたが、同様の講演会を毎年開くことは予算的に難しく、3 年に一度のペースで行っていきけるとよいと考えている。

県立大垣南高等学校 事業実施報告書②

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	・参加生徒 のべ 約140名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ③ その他（ 交流活動 ）
4 目標 (ねらい)	1. 障がいのある生徒が、どのような学習をしながら社会に一員となる訓練をしているのかを、地域の同世代として理解し、共生社会を一緒につくっていく意識づけとする。 2. スポーツや作業を一緒に行うことで、障がいのある生徒と一緒にスポーツや作業をする際に配慮できる点を考え工夫し、具体的な支援をする環境づくりに参加する。
5 取組内容	1. 第1回大垣特別支援学校との交流会 日時 7月20日（木） 内容 本校生徒70名ほどが、大垣特別支援学校を訪問し、グループに分かれ、それぞれで企画された遊びやスポーツを高等部の生徒と一緒に楽しんだ。その後、生徒会執行部と女子バスケット部員は残り、双方の生徒会が学校紹介や質疑応答をして交流したり、バスケットの交流試合をして過ごした。 2. 第2回 大垣特別支援学校との交流会 日時 9月5日（火） 内容 本校の文化祭への招待 開会式で音楽鑑賞に始まり、各部活動やクラスの出し物を体験してもらった。代表生徒が案内しながら、美術部のプラパンづくりや茶道部のお茶会などを体験したり、保護者のバザーで軽食を購入するなど、2時間ほどの交流活動を行った。 3. 第3回 大垣特別支援学校との交流会 日時 12月20日（水） 内容 本校の生徒70名ほどが、大垣特別支援学校を訪問し、グループに分かれ、特別支援学校高等部が日々行っている作業学習を一緒に行った。例えば、野菜づくり、陶器づくり、小物づくりなど。慣れている特別支援の生徒に作業のコツを教えてもらい作業をすすめていく中で、自己紹介や趣味の話などの会話を交えて、楽しい時間を過ごした。その後、生徒会のメンバー同士の交流が行われた。





6 主な成果

(生徒アンケートより)

○大垣特別支援学校の生徒から学んだことは何ですか？

- ・一生懸命なところ。 ・自立の仕方。 ・諦めないことの大切さ
- ・将来に向けて自分に合った仕事をしていること・挨拶、礼儀などの大切さ
- ・積極的に学んだりコミュニケーションをとること。 ・協力する姿勢。
- ・自分の仕事に責任を持っていること。 ・人に使ってもらおうという責任感。
- ・集中力があり、自分の仕事を大切にすること。・努力することの大切さ。
- ・思いやりの心とこだわり抜くことの大切さ。・何事にも真剣に取り組むこと。
- ・働くということの大変さと将来について
- ・仕上がり、速さを考えながら仕事をするということの大変さ、大切さ

○交流会に参加して、どうでしたか？

A：とてもよかった	47	B：よかった	11
C：ふつう	1	D：あまりよくなかった	0
E：よくなかった	0		

《理由》

- ・みんなで楽しく交流できたから
- ・障害がある、ないは関係ないことだと感じることができた。
- ・お互いのことを知ることができた。
- ・自分の視野を広げることができた。
- ・社会に出ていく大変さを学べたから。
- ・偏見が覆されたから。
- ・将来福祉の仕事に就くために今回の経験はとても役立つと思うから。
- ・特別支援学校のあり方について考えるきっかけになった。

○交流会に参加した感想・反省・交流会で一緒にやってみたいことなど

- ・今までは障害があるからと避けているところがあったので反省しなければいけないと思った。
- ・質問しあうトークタイムがあり、お互いの趣味などを知ることができた。とても楽しかったのでそういう時間があるといいと思う。
- ・普段の学校生活や部活の話をするのができて楽しく活動することができた。

	・将来特別支援学校の教員になりたいと思っているので、先生方を間近で見ることができてよかった。 ・夢に向かって頑張る姿を見て、自分も夢を見つけて頑張ろうと思った。
7実践において工夫した点 (事業の 特色)	・事前の集まりの中で、交流福祉委員長より参加者に対して、交流会の意義や障がいのある生徒への対応の仕方などを話してもらった。当日の交流会では、不快な態度や消極的な生徒は皆無で、積極的に関わろうとする気持ちのよい姿勢であった。
8主な課題等	・特になし
9来年度以降 の実施予定	・来年度も同様の活動を計画・実施していきたい。スポーツ交流をもっとやりたいという生徒からの要望があり、バスケット部だけでなく、サッカー部との交流も提案していきたい。

県立大垣南高等学校 事業実施報告書③

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

都道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 II、IV 】
2 実施対象者	・オーケストラ部、放送部、生徒会、家庭クラブの生徒 約50名
3 展開の形式	(2) 地域における活動 養老鉄道応援事業への参加
4 目標 (ねらい)	1. おもてなしやボランティア精神を熟成させる。 2. 地域の活性化など、社会の課題の発見やその解決に向けて主体的に取り組む態度を育てる。
5 取組内容	養老鉄道は、本校の約半数の生徒が利用しており、本校の生徒にとってなくてはならない大切な交通機関であるが、その養老鉄道が、今年開業10周年記念ということで、いくつかの企画を催された。その運営に本校の生徒がボランティアとして参加した。  ①10月1日 音楽列車 オーケストラ部の弦楽器担当部員が、電車の中で演奏パフォーマンスを行い、乗客をもてなした。 ②車内放送の音声データ作成 放送部員が、場内アナウンスの録音を、日本語版、英語版で行った。 ③養老鉄道沿線の観光にニーズについてのアンケート調査 10月～12月にかけて、養老線沿線で行われたお祭り等のイベント会場で、養老線利用についてのアンケートを行った。一回につき、2、3名の生徒が100名ほどのアンケートを集めることを目標に、11会場にのべ約30名の生徒が出動した。 

6 主な成果	(参加生徒のアンケートより) ・電車の中で演奏するという慣れないことだったので、最初はとても不安でしたし、お客様が近いということもあり、緊張していました。しかし、皆様が笑顔で演奏を聴いてくださり、曲が終わる毎に拍手してくださったり、時には手拍子もしてくださったりして、楽しんでいただけたようでとても嬉しくなりました。 オケ部1年女子 ・南高生の多くが利用する養老鉄道。その車内アナウンスを放送部が担当しました。電車内で乗客の方に聞きやすいトーン、速さを心がけ、部員3名が録音を行いました。養老鉄道を利用する方は、岐阜県の方とは限りません。普通の会話と違い、標準語のイントネーションでアナウンスすることに苦労しました。英語版も試行錯誤しながら録音しました。大変ではありましたが、普段使う電車で私達のアナウンスが放送されることをとても光栄に思います。 放送部2年女子 ・私は、今回が大垣駅前で行われた十万石祭で、養老鉄道沿線観光調査アンケートのボランティア活動に参加しました。今までは、ペットボトル回収などの人と直接関わらないボランティア活動しかしたことがなく、知らない人にアンケートをお願いすることはとても緊張しました。そのため、話をするときは笑顔で相手の目を見ることを心がけました。少しずつ慣れてきて、会話をしながらアンケートをとることができるようになりました。その中で「頑張ってるね」「お疲れさま」と言ってもらえ、とても嬉しかったです。今回のアンケートの結果が養老鉄道の増加につながればいいなと思います。 家庭クラブ代議員 1年女子
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・学校外での活動のため、生徒の掌握が難しかったが、養老鉄道側の担当者と連絡体制がきちんととれていたことで、天候の不順などに柔軟に対応できた。
8主な課題等	・生徒会や委員会、部活単位で参加を募ったが、学校全体に広く呼びかけはしなかった。掌握が面倒にはなるが、学校全体に広く公募してもよかった。
9来年度以降 の実施予定	・来年度は、大垣市市制100周年にあたり、市がさまざまなイベントを企画していくことになっている。観光にも力をいれていくということで、本校生徒もその運営に積極的にボランティア参加していきたい。さっそく、年度初めに行われるたらい舟観光事業の中で、オーケストラ部員が演奏したり、茶華道部員が抹茶のお運びを手伝うことになっている。また、6月に岐阜市で行われるアジアジュニア陸上選手権大会の高校生アテンド募集に9名の生徒が申し込みをしている。東京オリパラ大会に向けて、本校生徒が様々な形で携わっていけるよう促していきたい。

県立大垣南高等学校 事業実施報告書④

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

都道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I、V 】
2 実施対象者	・全校生徒 720名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 教科名(世界史、英語、家庭科、物理)
4 目標 (ねらい)	1. 体育以外の教科の中で、オリンピック・パラリンピックやスポーツを題材に学習することで、幅広い観点でオリンピック・パラリンピックのありかたを考えたり、スポーツを多角的な視点で楽しむことができるような態度を育てる。
5 取組内容	1. 世界史 A：2 年生全履修クラス対象 第1章 ユーラシア諸地域世界 第5節 ヨーロッパ世界 ヨーロッパの文化 宗教 この項目の中で、「Qなぜオリンピックが始まったのか？」をテーマに授業を実施。古代オリンピックの発生を宗教的行事の立場からとらえ、ローマ帝国政策により歴史に幕を下ろすところまでをQ&A形式で実施。その後、考査で下記のような問題を出題した。 問 紀元前から始まったとされるオリンピックだがローマの皇帝の時代に293回大会をもって中止となってしまった。その理由は何か。文章を参考に次の語句を用いて説明せよ。 語句：キリスト教 2. コミュニケーション I：1 年生対象 Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter 長井鞠子さんは、得意の英語力を使って、通訳者として前回の東京オリンピックの成功に貢献した。その自伝を読み終えた後、次のトピックで英語のエッセイを書く活動を行った。 意図： 現在高校1年生の生徒が大学生となった時に開催される東京オリンピックに向けて何ができるだろうか、考えさせたい。 取組：①プリントに載っている、キーワードの確認をペアで行う。また、それ以外のキーワードもペアで考えさせる。 ②20分で、次のトピックについて各自英作文を書く。 トピック：Ms. Nagai worked as an interpreter at the 1964 Tokyo Olympics.(Part 1 の本文より) 2020 Tokyo Olympics is coming soon. What can you do for it? ③ペアで交換して読みあい、Comment 1 に感想を記入して返す。 ④教員に提出、Comment 2 に教員からの感想をもらう。

3. 物理Ⅰ：2年履修クラス対象

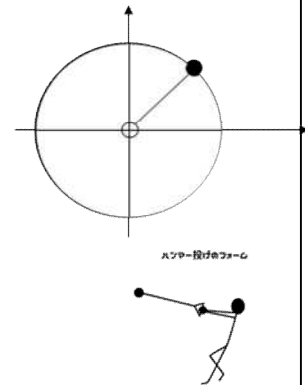
力学の「等速円運動の」のしくみを、ハンマー投げと結び付けて実践的に授業を行った。ハンマー投げ選手が、もっとも飛距離を延ばすのに何に気を付けているのかを考えるために、周期、角速度、加速度の関連性を理解し、回転数やハンマーの長さを導き出し解説できるようになることがねらいである。また、その学習成果を計るために、考査で次のような問題を出題した。

12 右図はハンマー投を上から見たモデル図である。

反時計回りにハンマーを等速円運動させている。現象を簡略化させるため、ワイヤーは軽い糸でできており、重力の影響については無視する。

(1) ハンマーの質量、ワイヤーの長さを変えずに速度を2倍にするためにはワイヤーを引く力を何倍にすればよいか。数式を用いて説明せよ。

(2) ワイヤーの長さ、ワイヤーを引く力を変えずにハンマーの質量を2倍にすると、回転の周期は何倍になるか。数式を用いて説明せよ。



4. 家庭基礎1年生全クラス対象

第5章「食生活をつくる」の単元で、資料集の「スポーツ栄養」を使い、スポーツをする上で必要な栄養や水分の取り方などを学び、自分の生活を振りかえらせる授業を行った。グループ学習でKJ法を使い、自分たちの食生活の問題点と改善策を出し合い、表にまとめる作業を行った。



自分の食生活を振り返る
KJ法の風景

6 主な成果

教科教育の中でオリンピック・パラリンピックに関するトピックを扱うことで、日々の学習がスポーツを支えることに結びついていることに気づくことができた。また、知識の注入で終わってしまいがちなことを、オリンピック・パラリンピックに関する内容で考査に出題したり、グループ学習に発展させるなどのアウトプットする場をもうけて、知識を生かす場を与えたことで、理解がより深まり、自分のこととしてとらえることができた。考査に出題された世界史Aと物理Ⅰの考査での正解率は、それぞれ8割と5割であった。

	(家庭基礎・スポーツ栄養についての授業後の感想より) ・わたしは運動系の部活動に入っていて、部活動の後帰宅までの間、とてもお腹がすきます。自販機で栄養補助食品とジュースを買ってしのぐこともあります。授業で1.5倍のエネルギー量が必要であることを知りました。量的に多いなと思いましたが、これだけ必要なのだと改めて思いました。食事は母が用意してくれているので、残さず食べて栄養不足にならないようにしていきたいです。 ・夏は特に、脱水症や熱中症の原因になるので、水分とナトリウムの補給が大切であることを学びました。それで部活動をする前と部活動の途中休憩、さらに部活動の後にお茶を飲むようにしました。また、水は不足すると全身に酸素を運んだり筋肉にエネルギーを運んだりすることが困難になるそうです。水は飲まなくても頑張れると思っていましたが、実はとても大切なものであることがよくわかりました。
7実践において工夫した点 (事業の 特色)	・複数の教科の先生がたに声をかけ、普段行っている学習に工夫を加え、オリンピック・パラリンピック教育に結び付けられないか打診したところ、このような取り組みとなった。生徒にとっても、スポーツという興味深いことに絡めて学習できることで、難しい学習内容がより身近に感じられ、積極的に取り組もうとする姿勢につながった。
8主な課題等	・全教科の先生に広げることができなかった。
9来年度以降 の実施予定	・来年度も同じ教材を使用する教科については、同様の取り組みをお願いしたい。

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立大垣南高等学校 事業実施報告書⑤

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

都道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ、Ⅴ 】
2 実施対象者	・2年6組 女子 24名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 教科名(体育)
4 目標 (ねらい)	1. 身体の動きが制限された状態で運動することを体感する。 2. パラスポーツの良さや楽しみ方を考える。
5 取組内容	1. 立った状態で2人1組で対人パスを行う。 2. 座った状態で行う。 3. 座った状態でチーム毎に円陣パスを行う。 4. シットイングバレーボールのルールの説明を聞き、理解する。 5. 6対6で試合を行う。 6. 立った状態でのバレーボールと、シットイングバレーボールの違いや楽しさを感じることができたかを振り返る。  

6 主な成果	(生徒の声より) ・とても難しかった。足を動かせないとボールの動きに対応できず、普段使っていない体の部分を使わないとボールを返すことができないと感じた。バレー部員の友達でも、かなり苦戦していた。シットティングバレーボール選手がプレイする映像を見て、足の代わりに上半身だけであんなに素早く動いていることにびっくりした。私たちの足の動きを補うその身体能力の高さはすごい。シットティングバレーボールの面白さがわかり、機会があれば、ぜひ観戦してみたいと思った。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・映像を見せる機会を何度か設け、実践前には予習としてイメージトレーニングをし、後には復習の機会とした。
8主な課題等	・活動時間や場所を全クラスに確保することが難しく、1クラスだけでの実施となってしまった。
9来年度以降 の実施予定	・実施予定はないが、紹介をし、希望があれば検討していきたい。

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立大垣南高等学校 事業実施報告書⑥

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

都道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I、V 】
2 実施対象者	・全校生徒 と 文化祭等来校者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ② 行事名 (文化祭)
4 目標 (ねらい)	1. パラリンピックの歴史的背景を学んだり、パラリンピアンを助ける特別な器具や競技方法の存在を知ること、障がい者スポーツの意義や可能性を知り、東京大会に向けてオリンピックだけでなくパラリンピックも盛り上げていこうという気運をつくる
5 取組内容	1. 「I'mPOSSIBLE」の展示  国際パラリンピック委員会が開発した教材である「I'mPOSSIBLE」を職員室前に展示した。クイズ形式になっているので、めくると答えになるように工夫した。講演会の宣伝も兼ねて、より多くの方々に見てもらえるようにと、文化祭に展示し、講演会後まで掲示した。 2. DVDの活用 文化祭では、上記の掲示に合わせ、近くにテレビを持ち込んで映像資料を流した。使用した教材は「I'mPOSSIBLE」のDVDと「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を編集したもので、来校者に   東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を促すとともに、本校がオリパラ教育実施校であることをアピールした。フラッグも同時に飾り、展示とともに、オリ・パラコーナーの雰囲気づくりに一役買った。

6 主な成果	・ 健常者やメディアはとにかくオリンピックの方に興味関心が行きがちであり、パラリンピックのことを軽視してしまっているのが実情である。パラリンピックで行われる競技に無関心の生徒が多かったが、今回の掲示で、パラリンピック競技の存在がアピールできた。また、車いすバスケットボール選手の来校に向けての意識づけにもなり、オリンピック以上にパラリンピックに目が向くようになったことが、前に載せた調査結果で明らかである。車いすバスケットボールの選手と一緒に来校された方が、偶然にも「I'm POSSIBLE」の作成に関わられたということで、この掲示を見て、その活用に大変喜ばれた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・ 上記の記述に含まれています。
8主な課題等	・ 今年度作成された「I'm POSSIBLE」が小学生向けのものであったので、内容が基本的なもので、高校生の興味をひくには物足りないものであった。来年度に中学生向けのものが作成される予定ということである。
9来年度以降の実施予定	「I'm POSSIBLE」の中学生版をお借りできれば、ぜひまた展示して、興味関心の喚起を促したい。